

Title	安南普陀山靈中佛碑中の一日本人名
Sub Title	
Author	松本, 信廣(Matsumoto, Nobuhiro)
Publisher	三田史学会
Publication year	1934
Jtitle	史学 Vol.13, No.2 (1934. 8) ,p.104(282)- 104(282)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	餘白録
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19340800-0104

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

安南普陀山靈中佛碑中の一日本人名

安南ツーラン附近巖石山中の靈中佛碑中に日本町在住の日本人名の見ゆることはサレー博士の「巖石山」(Les Montagnes de marbre, par Dr. Sallet (Bulletin des Amis du Vieux Hué, 11e Année, 1924, Hanoi 及び單行本)に紹介され、黑板博士も之を「南洋に於ける日本關係史料遺蹟に就きて」(啓明會第二十七回講演集)や「安南普陀山靈中佛の碑について」(史學雜誌四十編一號)中に敘及せられてをる。その人名のみに日本營宋五郎字道眞供錢一百貫とあり、之が朱舜水の安南供役紀事に表れる蘇五呂のことではないかと思ひ、本塾史學科の學生保坂三郎君にその調査を委託した。以下に氏の到達した結論を紹介する。朱舜水は一六四五年に故國を去り日本に行き翌年安南に赴き一六五一年舟山に敗れてまた安南に走り一六五三年に日本にあり翌年また安南に赴き一六五七年安南で魯王の敕書を得、翌年日本に渡航してをる。彼と安南居住日本人と交誼厚くフエイホに於ては日本人權兵衛の家であり、彌左衛門と云ふ者に金を借り、陸五と云ふ者に家事を頼み、蘇五呂に物を與へなどなしてをる。一六四〇年に靈中佛の碑が立つたとすれば安南供役紀事の著はされた年は一六五七年で十七年目であるからさまで年代的の矛盾なく宋五郎を支那音でうつす時に之を蘇五呂となしたものはあるまいか。舜水は恐らく當時安南方面で貿易に従事してゐた日本人と密接な關係を持ち鎖國後貿易に不自由を感じてゐた日本貿易商と安南日本人との間に介在し連絡をとつてをつたつたのではあるまいか、従つて彼が魯王の命を受けても直ちに歸國せず、一旦日本に赴きし理由、その奏文中に「營利」とか「臣之苦衷」とか云ふ言葉を使用する理由も之と關係があるのではなからうか云々。以上は大體首肯すべき論旨である(松本信廣)。